

米国金融政策（2024年1月FOMC）

政策金利を4会合連続で据え置き、次の一手は利下げに

2024年2月1日

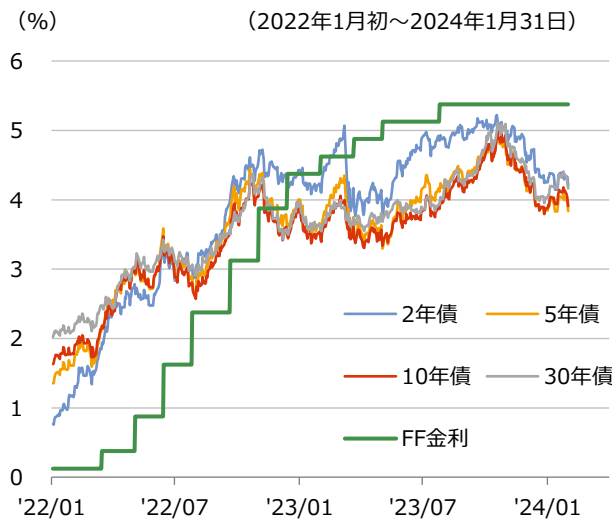
インフレ目標実現への自信が深まるまで利下げを急がず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は1月30～31日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは4会合連続です。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことも再確認しました。

声明文は大きく変わり、「政策金利に対するいかなる調整を検討するに際して」も、今後のデータや見通しの進展、リスク・バランスを「精査していく」とされました。過去の声明文を踏まえると、中立的でありながらも利下げに含みを持たず金融政策スタンスです。もっとも、持続的な2%インフレ目標の実現に大きな自信を持つまで、「利下げは適切とは思われない」と記しており、パウエルFRB議長も「3月利下げの可能性は高くはないだろう」と、現時点では早期利下げ観測に否定的な見解を示しました。

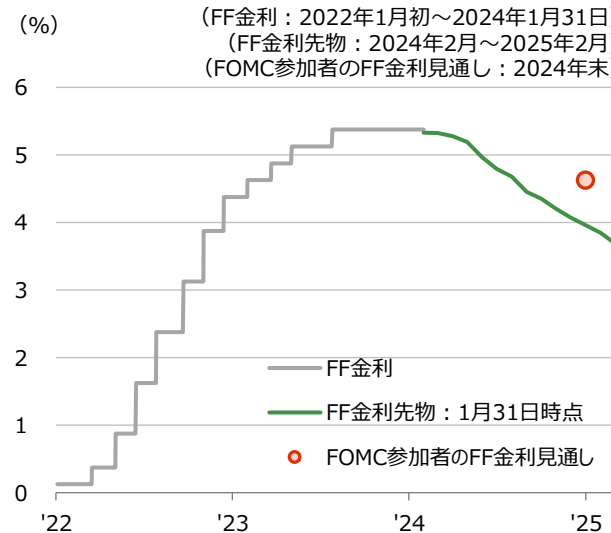
声明文が利下げに含みを持たせた一方で早期利下げ観測を牽制したことで、金利はFOMC後に上下しました。FF金利先物では3月の利下げ開始期待は3割台に低下したものの、2024年を通じて約1.5%ポイントの利下げを織り込むなど、年内の利下げ期待はFOMC後にむしろ若干高まっています。利下げ開始時期については雇用・物価指標を中心とするデータが焦点となりそうです。そのほか、3月FOMCでは保有資産の縮小ペースに関する本格的な協議が開始されるとのことで、何らかの変更が発表されるかもしれません。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。